平成19年度　第2回柏原市文化財保護審議会　会議録

日時　平成20年1月30日（水）　午後3時～午後4時10分

場所　柏原市立歴史資料館3階研修室

出席者　委員　塚口義信（堺女子短期大学学長）、綿貫友子（大阪教育大学教授）、
岩城卓二（京都大学人文科学研究所准教授）、長谷洋一（関西大学教授）、
市川秀之（滋賀県立大学准教授）

事務局　三浦誠（教育長）、大森敏文（教育部長）、村井義和（社会教育課課長）、
横尾孝男（社会教育課課長補佐）、北野重（主幹兼文化財係係長）、
桑野一幸（主査）、石田成年（主査）、
浅野保夫（歴史資料館館長）、安村俊史（主査）

次第　開会（午後3時）

会議録署名人選任　岩城委員　長谷委員

議事　議案1　市指定文化財の答申について

議案2　市指定文化財の諮問について

報告1　柏原市の文化財について

その他

閉会（午後4時10分）

議事　議案1　「市指定文化財の答申について」

平成19年5月29日付、柏教委第301号「市指定文化財の諮問について」により諮問のあった「高井田山古墳出土品」を有形文化財として市指定文化財に指定することについて答申。

議案2　「市指定文化財の諮問について」

平成20年1月30日付、柏教委第11号「市指定文化財の諮問について」により「松岳山古墳出土品」を有形文化財として市指定文化財に指定することを諮問。

平成20年1月30日付、柏教委第12号「市指定文化財の諮問について」により「茶臼塚古墳出土品」を有形文化財として市指定文化財に指定することを諮問。

報告1　「柏原市の文化財について」

柏原市雁多尾畑における「座當家」について

＜事務局石田＞　定刻となりましたので、ただいまから平成19年度第2回柏原市文化財保護審議会を開催いたします。最初に三浦教育長からご挨拶申し上げます。

＜三浦教育長＞　先生方にはお忙しい中、第2回柏原市文化財保護審議会にご出席いただきまして本当に有り難うございます。本日はご承知のとおり前回5月29日に諮問しました指定文化財の答申、それからまた新たな諮問についてご審議いただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

＜石田＞　議事進行の前に本日の会議の会議録署名人を選任させていただきます。僭越ではございますが、事務局からお二人の署名人をご推薦させていただきますがよろしいでしょうか。

＜塚口会長＞　はいどうぞ

＜石田＞　では今回は岩城先生と長谷先生にお願いいたしたく存じます。宜しくお願いいたします。

＜塚口会長＞　はい宜しくお願いいたします。

＜石田＞　本日の会議ですが審議会委員7名のうち5名の先生方のご出席の旨、頂戴しております。市川先生につきましてはこちらに向かう途中、電車の事故で遅れているご様子ですけれど、遅れても参りますとのご連絡を頂戴しております。柏原市文化財保護条例施行規則第26条第2項の規定によりまして、今回は成立しておりますことご報告いたします。それでは後の議事進行につきましては、塚口会長様から進めていただきますよう宜しくお願いいたします。

＜塚口会長＞　それでは失礼いたします。議案1の市指定文化財の答申についてまず審議させていただこうと思います。平成19年5月29日に開催されました第1回の審議会におきまして、高井田山古墳出土品を市有形文化財として指定しようという方向で話がまとまりました。ただコメントの中で、員数、名称、単位、また古墳の年代、石鏃についての附たり等につきまして、置田先生を中心にもう一度検討していただいて、それを第2回の審議会に提出して下さいと話がございました。そこで事務局からまず、それらについてご説明をいただきます。

＜石田＞　事務局石田です。前回の審議会でご指導ご指摘がありました点につきまして、それを含めて昨年9月12日に置田先生に歴史資料館においでいただきまして高井田山古墳の出土品ほとんどをご覧いただきました。その上でまずお話しがありました員数についてですが、鉄の破片のカウントの仕方をどうするかというところで前回の審議会のご指導があったわけですが、前回の資料のなかで高井田山古墳出土品の員数を確認したものを上げておりましたが、基本的にはこれら点数が多いということを強調しておくためにもこの点数は生かしておいてもいいかなと考えております。ただたとえば頸甲ですとか肩甲、短甲ではそれぞれの部位でもって一つの個体になる可能性があるかどうかはまだよくわかってないところもあるかと思いますのでそれについては一

式とするにしても、たとえば鉄鏃ですとか先端の部分がその個体を特徴付ける部位であるとするならばそれの個体数をカウントできますので、それをもってまず点数については生かしておいてもいいかなと考えております。同時にそれぞれの遺物をご覧になっての感想ですが、非常にやはり優れたものが多いというご感想をお持ちになりまして、これはすぐにでも市の文化財に指定するのがよろしいでしょうと、こういう意見を頂戴しております。あいにく今日はご出席されるおつもりでしたが、朝から体調が悪いということでご欠席です。申しましたように9月12日にご覧なってのご感想ということでそういうふうに承っております。

＜塚口会長＞　はいどうも有り難うございました。本日はご苦労おかけしました置田先生からと考えておったのですが体調が悪くて急遽ご欠席となりました。事務局の方に置田先生から特に何かございませんでしたでしょうか。

＜石田＞　実際にものをご覧になって、それぞれなかなか関心を持ってご覧になっておられたという当日のご様子です。すばらしいなと常に仰ってました。

＜塚口会長＞　わかりました。それでは先生方の間で何かご意見ございませんか。無いようでございますので、こういう形で柏原市の指定文化財ということで答申いたしたいと思います。

（答申書朗読）柏原市指定文化財の指定について、答申。平成19年5月29日付け柏教委第301号で諮問のあった、＜高井田山古墳出土品＞　の柏原市指定文化財への指定について、審議の結果、次のとおり答申します。＜高井田山古墳出土品＞　の柏原市指定文化財への指定については、原案どおり指定することを適当と認めます。以上でございます。宜しくお願いいたします。

＜塚口会長＞　それでは議案2に移りたいと思います。市指定文化財の諮問について。教育長さんから審議会に諮問書を出していただきます。

＜三浦教育長＞　（諮問書朗読）柏教委第11号、平成20年1月30日、柏原市文化財保護審議会会長様、市指定文化財の諮問について、柏原市文化財保護条例第6条第3項の規定に基づき、松岳山古墳出土品を有形文化財として市指定文化財に指定することを諮問いたします。

柏教委第12号、平成20年1月30日、柏原市文化財保護審議会会長様、市指定文化財の諮問について、柏原市文化財保護条例第6条第3項の規定に基づき、茶臼塚古墳出土品を有形文化財として市指定文化財に指定することを諮問いたします。

＜塚口会長＞　諮問の物件は2点ございまして、一つは松岳山古墳出土品、もう1点は茶臼塚古墳出土品。計2点です。事務局から松岳山古墳出土品の方からご説明いただきます。

＜石田＞　今回諮問させていただきます松岳山古墳出土品につきましては、まず対象としますのは楕円筒埴輪3点と壺形土器2点です。松岳山古墳は柏原市国分市場2丁目に

所在します。大和川左岸の丘陵上に位置する全長約 130m の前方後円墳でありまして、7 基以上の方墳もしくは円墳で構成される古墳群の主墳であります。墳丘表面は安山岩の板石を積み上げて構築されております。主体部は竪穴式石室で、長持形石棺の祖形とされる組合式石棺が今も露出している。昭和 40 年 1965 年に、京都大学によりまして主体部の発掘調査が実施されております。その後昭和 60 年 1985 年、茶臼塚古墳の発掘調査時に前方部前面テラスを検出しまして、その場所におきまして楕円筒埴輪の樹立が認められました。その翌年昭和 61 年 1986 年には、くびれ部を中心とする範囲確認調査を実施しまして、多量に板石材を用いた墳丘構築の実体を確認しまして、裾を巡る小型埋葬施設等を検出しております。楕円筒埴輪 3 点は、先生方には館内ご見学の中で実物をご覧になったかと思われますが、歴史資料館の常設展示の入口正面に展示しております楕円筒の埴輪であります。お手元の資料には楕円筒埴輪 1、同じページに楕円筒埴輪 3、次のページに楕円筒埴輪 2、それぞれの実測図を掲載しております。また今日は資料として先生方には平成 12 年 2000 年に歴史資料館で松岳山古墳群の埴輪を集成しましたカラー刷りの資料をお手元にお届けしております。特異な形態を持つ楕円筒埴輪が出土しておりまして、松岳山古墳の西の端、茶臼塚古墳と接するところで出土しております。法量をいいますと、楕円筒埴輪 1 でみますと器高が 147 センチ、長径 70 センチ、短径 40 センチを測ります。ご覧いただいたように頭部の飾りですとか、埴輪の体部、側面の鰭状の飾り、それと巴状の透かし孔とか、かなり特異な形態をしておりまして、ほかに各地の古墳の類例を見ましてもなかなか例がないようなそういう埴輪であります。それとまた範囲確認調査ですとか茶臼塚古墳の発掘調査時に出てきました壺形土器がありまして、それも同時に指定の諮問の対象といたしました。以上です。

＜塚口会長＞　はい有り難うございました。何かご質問、ご意見等ございませんか。松岳山古墳と申しますと、初期大和政権の問題を論ずるためには欠かすことのできないまさに重要古墳でして、日本でも超有名古墳と言ってもいいと思うんです。何としても早く指定しておかなければいけない。年代は古墳時代前期。具体的な年代に関しては考えられるところもあると思うんですけれど、だいたい西暦どのくらいの年代と。

＜安村＞　私は 4 世紀前葉、330 年から 340 年ぐらいに置いています。私の考え方は一般的には古いと思います。もうちょっと新しく考える方が多い。360 年ぐらいに置いている方が多いと思います。

＜塚口会長＞　だいたい 330 年から 350 年ぐらいが松岳山古墳の時期となってくるんですね。代表する古墳としては渋谷向井山から・・・。

＜安村＞　渋谷向山、景行陵よりはちょっと古いと思います。

＜塚口会長＞　よりもまだ古い。行燈山ぐらい。

＜安村＞　行燈山よりはちょっと新しい。その間に入ってくるぐらいだと思います。

＜塚口会長＞　まさに大和王権が成立して間もないころ。これからもますます注目される古墳かと思います。

＜岩城委員＞　この場所は現在誰でも入れるんですか。

＜石田＞　松岳山古墳は国の史跡になっておりますけれど、史跡になっているのは後円部だけで、前方部は史跡を受けておりません。私有地、民有地ですのでその場所への立ち入りはなかなか、勝手に行って見るというのは難しい。この楕円筒埴輪が出ましたのは民有地です。

＜岩城委員＞　民有地の部分は現在特に開発とかはされないで、そのまま？

＜石田＞　はい。

＜岩城委員＞　写真の図録の 3 ページの右上のこのモノクロの写真というのはこれが現状なんですか？こういう状態で？

＜石田＞　松岳山古墳の西の端の前方部のテラス、それを前提に発掘調査した結果ではない。後ほど諮問させていただく茶臼塚古墳の調査の時に調査区を延ばしていきましたら、ほとんど偶然というか松岳山古墳の前方部テラスが検出されて、その調査区の中に楕円筒埴輪がうまくひっかかってきたというのが実際のところです。前方部テラスに直交する調査区を設定して、調査区 2 カ所それぞれに楕円筒埴輪がひっかかってきました。このカラー写真の上段と下段がそうなんですけれど、上段の写真で埴輪が 2 本検出された状況の写真ですけれど、これは別個体で、この左の埴輪については隣に樹立されていた楕円筒埴輪それが折れてこちら側に転落してきた。それがこういう状況で検出された写真です。今回諮問の対象とする楕円筒埴輪 3 点についてはそれぞれこの写真でおわかりいただけるかと思います。この写真に載っている埴輪が今回の諮問の対象ということです。前方部をもし全面調査したとなったら、同様に埋め込まれている部分については現状でしっかり遺ってて、調査でもすればこういう状態のものが前方部に並んで検出される、そういう可能性を持っています。

＜長谷委員＞　楕円筒埴輪と円筒埴輪の違い、どういう特徴があるのでしょうか。

＜安村＞　よくあるのは円筒埴輪で、普通はそれを古墳の周りに立て並べます。古墳時代の前期の古い時期にそれが横に広がった楕円形のものを立て並べる例が全国で 20 数例、30 例弱だと思います。なぜそれが出てくるのかはよくわからないんですが。古い時期の古墳には埴輪はポツポツとしか立てないが、だんだん数が増えてきます。壁のように、見えないようにずらっとまわりに立て並べるようになる。それの省略といいますか、横長にすれば 1 本の埴輪で 2 本分ぐらいいけるので、発想的にも見た目にも横に大きく見せることだと思います。そういうことから始まったんだと思います。その中でも松岳山古墳の埴輪は楕円筒埴輪の中で全国最大の埴輪。普通は 50・60 センチぐらいです。おそらく 1 メートルを越える楕円筒埴輪は他では見つかっていません。

＜長谷委員＞　まさに埴輪で見通しが効かないようになっている？

＜安村＞　特に松岳山古墳の場合は階段状に2段3段と築くが、上の段のテラスには普通の円筒埴輪を立てているようだ。一番裾のところだけこの大きな楕円筒の埴輪をずっと並べている。一番裾のところに見た目にも大きなものを立て並べるそういう状況だったようです。そういう立て方をしているのもまたおもしろい。

＜塚口会長＞　綿貫先生いかがでしょうか。

＜綿貫委員＞　形状が珍しいし、鰭はどういう意味を持つのかなぁと。

＜岩城委員＞　この図録によりますと円筒埴輪も出ている？

＜石田＞　ご覧になっている円筒埴輪は茶臼塚のもので、このあとの諮問で対象としています。

＜塚口会長＞　楕円筒埴輪という名称なんですけども、ほかにたとえば楕円形埴輪あるいは楕円形円筒埴輪という言い方があります。これ3点とも鰭が付いてますね。そうすると楕円形鰭付円筒埴輪という言い方、研究者でもいろいろ名称、言葉遣いが違っているように思うんですけど、そのあたりについてご説明お願いできますか。

＜安村＞　以前は楕円形埴輪と普通に言われておったんで、私は今でも楕円形埴輪を使っています。お手元の図録でも楕円形埴輪で書いています。ところが最近調査事例が増えて、楕円形ではなくて、円筒埴輪は円の筒だから円筒という、よって楕円形の筒だから楕円筒埴輪と呼ぶべきではないかという研究者が増えてきました。楕円筒は普通の言葉にはないが、形状を表すために楕円筒埴輪という名称が最近よく使われるようになりました。鰭付は前に付けて、鰭付楕円筒埴輪と言い方もしますし、鰭付円筒埴輪があるから楕円筒も鰭付楕円筒埴輪と言っています。どれが正しいというのではないが、今回一番最近よく使われる楕円筒埴輪という名称で提案しておりまして、名称的には問題ないです。

＜塚口会長＞　鰭付という言葉はお付けにはならない？

＜石田＞　また置田先生のご指導を受けながら、研究の現状をふまえて次回の審議会までに統一します。

＜塚口会長＞　円筒埴輪はあちこちにありますね。楕円筒埴輪となりますと量が少なくなる。さらに鰭付となりますとほんとに少ない。鰭付という特徴を生かされるといいですね。今日は残念ながら置田先生ご欠席でいらっしゃらないので。一応諮問は指定にむけて前向きに考えることでよろしいでしょうか。名称の問題も含めて置田先生を中心にもう一度ご検討、点検していただいて、次回の答申の時に事務局からご説明ということでよろしいでしょうか。それでは次に茶臼塚につきまして事務局からご説明下さい。

＜石田＞　茶臼塚古墳の出土品について諮問させていただきました。茶臼塚古墳は松岳山古墳のすぐ西に隣接する古墳です。昭和59年1984年に土地所有者らによる農作業中に竪穴式石室が発見されました。その際、石室南半の緊急調査を実施し、翌年には石

室北半と墳丘の確認調査を実施した。その結果、松岳山古墳の前方部前面に位置するほとんど接する状態で位置することがわかりました。南北26メートル、東西22メートルの方墳で、安山岩の板石を垂直に積み上げて墳丘を構築しております。主体部は安山岩板石を小口積みにした竪穴式石室で、全長620センチ、幅100センチ、高さ170センチを測る。今回諮問させていただきます出土品は竪穴式石室から出土したものがほとんどです。鏡2面、碧玉製腕飾類、内訳は鍬形石6点、車輪石8点、石釧41点、また鉄器、墳丘の調査時に出土しました円筒埴輪1点。鏡につきましては三角縁神獣鏡、これは仿製の獣文帯三神三獣鏡であります。直径21.9センチを測ります。もう一面は仿製の四獣鏡でありまして、直径は13.2センチ。鏡につきましてはお手元の議案書に資料として写真をつけております。碧玉製腕飾類、これは茶臼塚を最も特徴付けるものでありまして、鍬形石6点、車輪石8点、石釧41点が竪穴式石室の棺床、床面に並ぶように出土しておる状況が確認調査、新発見時の土地所有者らからの聞き取りにより確認しております。石室内で出土しました鉄器類、刀子2点、斧1点、鎌1点、鏃2点。円筒埴輪、資料の中にカラー写真で掲載しております。下部を欠いておりますので全高、完存したときの法量はわかりませんが、残存する高さ 56 センチ、口径22センチ、体部径34センチを測ります。突帯4条分を遺しております。口縁端部は最上部の突帯から外反する形状を持っております。表面に赤色顔料が塗布されております。特徴付けるものとしまして碧玉製腕飾類があると申しましたが、トータルの数量はこの調査時には全国で4番目の多さでありました。一番多く出しているのが奈良県天理市の櫛山古墳、2番目が岐阜県の長塚古墳、3番目が三重県上野市の石山古墳、それに次いで茶臼塚の総量55点があります。数としては全国4番目でありましたが、近年奈良県の島の山古墳で多量に碧玉製腕飾類が出ましたので、現状では全国で5番目の多さ。単一の古墳から出土した碧玉製腕飾類の数としては全国で5番目の多さであります。小さな古墳であるが多量に碧玉製腕飾類を伴っているという点で非常に特異であり、また古墳そのものも安山岩の板石を積み上げて墳丘を構築しているという点で、発掘調査したときには、朝鮮半島の積石塚を想起させるような形状で高句麗式の古墳であるとセンセーショナルに報道した新聞社もあったんですが、これもかなり特異な古墳であるというところで今回諮問いたしました。

＜塚口会長＞　直接出土品には関係ないのですけれど、松岳山古墳と茶臼塚古墳の前後関係はどのくらい。

＜安村＞　同じと考えています。古墳の作り方から見ると、松岳山古墳が先に作っていると考えざるを得ない。大きい方が先にできていると考えるのが自然かなという気がします。出ている埴輪、遺物を見ると全く時期差がないように思えるので、私は同時に作っていると考えています。もうちょっと新しくなると大きな古墳では陪冢、陪塚、周りに小さい古墳を伴うようになりますが、そういう形態の先駆的な古墳の一つと考

えていいと思います。

＜塚口会長＞　あまり時間差がないということですね。鏡2面ですが、仿製鏡である理由をお聞かせ下さい。

＜安村＞　三角縁神獣鏡は一般に舶載鏡、中国製ですね。それと仿製鏡、日本製と。当然中国製のものが古くて、そのあと日本で作られる。大きく前後2時期に別けられる。細かく言うと、本当にそれでいいのかということもあるが、最近の鏡を専門に研究している方もその基準はいいのだろうと考えています。文様がやや退化しているとか。たとえば三神三獣鏡、神様が3体と獣が3体が交互に1体ずつ入っている形の三神三獣鏡はほとんど仿製鏡、日本製の鏡でありまして、舶載鏡にはごくわずかにあるが、日本製のものの典型的なものは三神三獣鏡になるということです。茶臼塚古墳の場合は一応仿製鏡と考えているが、仿製鏡の中では一番古いタイプです。舶載鏡のすぐ後にくるようなタイプ。四獣鏡については文様が不鮮明ですし、それが最大の仿製鏡の理由で、中国製だともっときれい。文様が甘いという程度のものの判断で、仿製鏡でいいだろうと思います。

＜長谷委員＞　鍬形石が6点ということで、図面には5点しかないということと、車輪石8点、石釧41点ですね。この資料をみるとどこまでが車輪石なんでしょうか。

＜石田＞　お示ししている鍬形石は5点です。図示していない破片の中に明らかに鍬形石の部分というのが1点あります。これらとは別個体であると判断できるので、数としては6点。車輪石8点については、この資料を作るときにどこまでが車輪石でどこまでが石釧かと言っていたが、まず腕飾類6から16でお示ししている中で、左側の7点については車輪石。14番も車輪石で、8点です。他が石釧で、あと明らかに別個体と思われるが図示できないものが何点かある。明らかに別個体と判断できるものとして石釧が合計で41点とカウントしております。

＜塚口会長＞　こういう場合には全部載せておく必要はあるんでしょうか、ないんでしょうか、どうなんでしょう。

＜石田＞　図示できづらい個体があるので。

＜塚口会長＞　考古学界では茶臼塚というと、これは小さな方墳なんですが、非常に有名な古墳です。市の指定としては本当に早くと思っております。

＜綿貫委員＞　写真の1、2でかなりピンク色になってますが、円筒埴輪も赤色顔料が塗布されておりまして・・・。

＜石田＞　こちらの写真で赤く見えてますのは、石室の底部に粘土で床を作っている。そこに木棺、木の棺が置かれているわけですけれど、その木棺に塗られた朱が木棺が腐ることで朱がこちらに移ります。棺の床が赤く遺っている。よく言われるのが防腐的な効能が朱にあって、そういう点で棺の内部に塗られています。

＜塚口会長＞　これもご専門は置田先生でいらっしゃって、事務局からご相談して、次回

の答申の会議のときに、それを出していただくという形でよろしいでしょうか。それでは議案1、2を終えまして、次に報告の1、柏原市の文化財につきまして事務局からお願いします。

＜石田＞　報告1としまして柏原市の文化財についてです。これは前回の審議会のなかで塚口先生から雁多尾畑に残る当夜制度について、もうちょっと調べてきたらどうかとご指導がありました。昨年平成19年12月14日から15日にかけて、柏原市雁多尾畑で当夜の行事があるということでしたので私が行って参りました。こういう民俗調査的なことは恥ずかしながらやったことがありませんので、その状況を写真でもってご報告するに留まりますことをお許し下さい。雁多尾畑（カリンドバタ）はこういう字を書きますが、そこで行われている座当夜（ザノトヤ）という当夜制度で、こういう字を書いて「ザノトヤ」と読むようですけれど地元の方は「ザノト」「トウヤ」ともしております。雁多尾畑の集落のすぐ南側に金山媛神社があります。ここの当夜制度の行事です。毎年12月15日の朝にお供えにあがるということでして、その前の晩に一連のお供え物の準備をなさいます。それぞれ男性が戸主になっている世帯が5戸集まりまして、男性5人で一連の準備をします。私が前から聞いていたのは前日12月14日の夜の遅々に準備をされていたのですが、いつの頃からか昼間の明るいうちから準備をすると変化しているようです。1軒のおうちに男性5人が集まりまして、餅米5升を前日から洗ったり水に浸したりして用意をされていたものですが、その餅米5升を蒸しておこわ状にします。そしてバランを水洗いしてきれいにして置いてある。他に準備するものとしまして、ダイコン、ニンジン、シイタケを半紙に巻いて結わえてセットして置いてある。あとお酒、乾物類、カマスの開きを用意してありました。おこわは木枠、一辺が15センチ程度の木枠に詰めまして、上から写真で見えますように押さえる道具で、押し寿司を作るような要領で押して。木枠の角が立っているのがおわかりでしょうか。角をツノのように立たせるように形作りまして、バランで包んでワラでくくるというものです。これを前の晩にお供え用として10個用意します。それをダイコン、ニンジン、シイタケ、カマスそれらとともに翌朝12月15日の朝8時前には中心となるお宅に集合なさいまして、8時をめどに金山媛神社に持って向かいます。それの奉納風景ですけれども、三方に写真のようにセッティングされて、それをそれぞれのおうちの方、準備に参加されたご当主と夫婦であれば奥さん、5世帯あれば10人の方がそれぞれ一人ずつ奉納なさると、そういう手順です。また金山媛神社の並びにある末社にもまた奉納されたものをいったん下げて、末社にまた奉納するというものです。何かこれに関係する記録、文書でもあるのかと金山媛神社の宮司さんにお尋ねしましたが、記録も一切無くこの行事が進められているようで、この準備のとき、前日の準備のとき、晩にする理由として翌年当夜に当たる世帯の方が練習がてら、来年どうしたらいいのかを見に来るために晩にしてましたんや、ということをお聞き

しておりまして、この行事そのものが晩にする規則というか、決まりがあったわけでも無さそうです。これが終わりますと奉納されますと、その場で解散して、持ち帰ってということです。以上です。

＜塚口会長＞　ありがとうございます。市川先生、民俗がご専門ということで何かご質問等ございましたら。

＜市川委員＞　バランは昔からですか。

＜石田＞　いつからかはわかりません。

＜市川委員＞　雁多尾畑の村の全員が当夜に・・・。昔からですか。

＜石田＞　そう聞いてます。今 300 世帯ぐらいあるかと思うんですけれど、それが 5 世帯ずつ回りますので、だいたい 50・60 年に一遍回ってくると。聞いたところによりましたら、雁多尾畑でもそうなんですけれど、青谷でも同様のものがあると金山媛神社の宮司さんは仰ってました。ここは雁多尾畑よりももっと厳格やという表現をなさってました。私もそのとき初めて聞いたものですから、青谷で行われている制度がどういうものかまだ確認しておりません。

＜塚口会長＞　柏原市にはもう当夜らしきものは、雁多尾畑辺りぐらいしか残ってないですね。私、実は 39 年前に一遍参りました。調査と言うても見ただけなんですけど。いかがでしょうか。もちろん調査しなければならんと思うんですが。

＜長谷委員＞　翌年違う世帯になると、それは自動的にやっていくわけですか。そしたら順番ということで？

＜石田＞　5 世帯のブロックがあれば、その横、隣のおうちという回り方をしています。

＜長谷委員＞　5 人とも全員変わっていく？

＜石田＞　はい。

＜塚口会長＞　古文書の類が全然無いというのはちょっと辛いですね。

＜石田＞　ここで使われている道具にしても、伝統的なものかどうかということになったら、手が加わっているであろうし、もし傷んだりしたら、次にまた新しく作ったり何かを転用していることがありました。おこわを詰めている木枠にしても、その行事のためにあるという雰囲気ではなかったんです。次のグループ、翌年されるところには道具一式が送られるんですけれど。

＜塚口会長＞　この行事についての報告書の類は今まで何かあるんでしょうか。

＜石田＞　ないです。

＜塚口会長＞　田中久夫さんらのグループが一度この辺入っておられると思うんですけど、そこにはないですか。田中久夫、井阪康二。

＜市川委員＞　御影史学会があって、そこで雑誌を出しておられて、雑誌の合間に年報のようなものをやってたという人がおられまして、そこに載っています。

＜塚口会長＞　何かこの辺を調査されたことありましたね。

＜市川委員＞　昭和30年代に大阪府が大阪府民俗資料を調査したことがあって、その前に昭和11年か12年に肥後和男という人が宮座調査をしておりまして、その時もここは対象になってます。それの下書き原稿のようなものが明治大学に入ってまして、アンケート調査はこのあいだ関西大学から発行したように思います。2次調査の報告は明治大学にありまして、それは昭和10年ぐらいの状況でして、古文書の写しなどものっています。コピーは私の家にありますので送らせていただきます。いまは入手ができないんで。 府の文化財保護課には、大阪府の民俗地図の台帳があると思います。調査したのは御影史学会と一緒の人じゃないかと。

＜塚口会長＞　おそらく大阪府の調査でしたら、鳥越憲三郎先生がリーダーになっておやりになったあの調査ですね。市川先生中心に継続調査という形でお願いすることでいかがでしょうか。お忙しいところ申し訳ないんですけれど。

＜石田＞　塚口先生、市川先生にご指導受けまして。

＜塚口会長＞　それでは報告１はこれで終わりたいと思います。その他何かございますでしょうか。柏原市には文化財がたくさんございますので、まだまだ指定する必要があると思います。具体的にどういうものから指定していけばいいのか。考古以外のものですね、こういうものはどうかというのがございましたら事務局の方に是非言っていただきたい。お願いしてよろしいでしょうか。それでは審議等が終わりましたので、これで閉会させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。どうも長時間有り難うございました。事務局よろしくお願いします。

＜石田＞　長いお時間どうも有り難うございました。おかげさまでやっと第１号の指定物件が今回答申を頂戴しました。これで終わりではありませんで、まだこれからの方が大変かと思いますので、どうぞよろしくお願いします。今日はどうも有り難うございました。

＜塚口会長＞　次回はいつごろになるでしょう。

＜石田＞　今年度の第１回が５月の末でした。同様の頃でいかがかと思います。

＜塚口会長＞　どうも有り難うございました。

以上